

Tokai Symphony Orchestra

東海学園交響楽団

～東海中学・高校の生徒によるオーケストラ～

第29回定期演奏会

2013

愛知県芸術劇場コンサートホール

18:30開演 (18:00開場)

3.22 (Fri)

入場無料・全席自由

J.シベリウス

J. Sibelius
Finlandia, op.26

交響詩「フィンランディア」 op.26

中村 翔

東海中卒・東海学園交響楽団OB
東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校作曲科2年

ピアノ協奏曲

(独奏:中村 翔)

A.グラズノフ

A. Glazunov
Symphony No.5 in B-Flat Major, op.55

交響曲第5番

変ロ長調

op.55

お問い合わせ

東海中学 052-936-5114

東海高校 052-936-5112



カリンニコフについて、グラスノフ、そして中村翔

東海学園交響楽団顧問 西村尚登

昨年のカリンニコフについて、グラスノフ。愛すべき生徒たちに導かれて新たな音楽の道に彷徨い込み、それに浸る。それはまた、至福の経験。さて、2012年・夏、名古屋マーラー音楽祭の第二部“千人の交響曲”の演奏会をみなさまのおかげで成功裡に終えることができました。二日間で4000名を越える方においでいただきました。第一部・第二部を通じ、一年半の期間マーラーの世界に浸るきっかけは、やはり教え子でした。また、名古屋マーラー音楽祭に参加した10のオーケストラのうち5つのオケの団長が東海オケ出身だったのも単なる偶然ではありません。“マニア”、“おたく”という言葉は、ある意味ネガティブな意味で使われますが、東海の教員の間では、ひそやかな“尊敬”の響きもあります。人間がそこまでのめり込むことができるのか？ マニアのもつ凄さ、凄みが伝わってきます。おたくでいても決して疎外されることのない特殊な空間、東海中学・東海高等学校。ある意味、マニアックなこだわりの世界。“かづらかた”“数学オリンピック”“ディベート甲子園”“物理オリンピック”“オリエンテーリング”“ロケット甲子園”“ジャグリング”などなど。そして、わがオーケストラ部、そして究極の選曲“グラスノフ”。

これは作曲家の名前。ロシアからソビエト連邦が変わるときに、サンクトペテルスブルグで音楽院長の要職についていたロシアの作曲家。そのご亡命してパリで客死しました。彼の生徒の一人が、シヨスタコーヴィチ。彼からは、“古い”と言って退けられたといわれていますが、リムスキーコルサコフに見出され、ポロディンからも大きな評価を得ていました。その曲には民族色もあり、ワーグナーの影響もみられる、本当に多彩な音楽です。日本では、あまり演奏される機会はありませんが、その分却って新鮮です。そして、彼の交響曲第5番、今回取り上げるこの曲は、壮大な構想に基づいた絢爛豪華な作品であります。ハープやバスクラリネットなどの珍しい楽器も駆使されており、男子中高生が正面からぶつかっていきたいと思うような“やべえ”曲といえます。指揮者の寺川が推薦し、現高校2年生の仲間から絶大な支持を得た曲なのです。寺川は小学生の頃、サタプロの“あなたも指揮者”に二度挑戦し、念願かなって東海中学に入学し、そして東海学園交響楽団に入部し、満を持して、指揮者としてこの曲に取り組んでいます。

さて、もう一曲の中村翔の“ピアノ・コンチェルト”。Sho NAKANMURAとはかつて東海中学に在学し、その後東京芸大付属高校の作曲科に進んだ音楽の俊秀です。本来ならば、現高校二年生と同学年で、在学していれば楽団の指揮者になったかもしれない逸材でもあります。音楽に対する情熱冷め遣らず、芸高に進みましたが、その彼が、仲間のために作曲したのが、この“ピアノ・コンチェルト”なのです。曲調といえば、まさに典型的なmodern classical music。以前、この楽団のために作曲し、東京芸大にすすみ、現在新進気鋭の指揮者として活躍している角田鋼亮は、第14回の指揮者でしたが、そのピアノ協奏曲は“ラフマニノフ”でした。時代も状況も変わり、武満徹ばりの現代曲が、当楽団のために献呈されたのです。そして、そのピアニストも中村翔。自分の曲を引っさげて、名古屋に錦を飾ります。尾木直樹氏がその著書“子どもが自立する学校”で語っておられる“自立した子ども”とはまさに、このオーケストラ部の子どもたちのことでもあります。仲間の作曲した楽曲を、仲間のピアノ・ソロで、仲間の指揮で、仲間のオーケストラで演奏する。日本ではもちろん、世界でも類まれなcollaborationなのです。

現在の高校3年生は、楽器演奏のスター揃いでした。その学年が引退して、どうなることかと思いきや、現高2が引き継いでも、オーケストラとしては更にversionアップしたのです。当楽団は、2013年創部30周年を迎えますが、その年月の積み重ねが伝統となり、オーケストラの基盤となっていると実感できます。“猿投の森”の音楽祭、“かづらかた”10周年記念公演、各地オータムフェスト、今年もいろいろな場面場面で演奏を繰り広げてきました。来る第29回定期演奏会にも大きな期待が持てます。ぜひ、皆様お誘い合わせの上、会場に足をお運びくださいますよう、心よりお願いもうしあげます。